



令和7年度積算基準の改定等について

令和7年7月10日

徳島県県土整備部 建設管理課



目次

1. 現場環境の改善費用の充実について（熱中症対策等）
2. 週休2日補正について（完全週休2日の導入・通期廃止他）
3. 移動時間を踏まえた歩掛改定について
4. 土木工事標準歩掛の改定について
5. 施工パッケージ型積算関係の改定について
6. 鋼橋製作工の歩掛改定について
7. ICT活用工事の改定について
8. 機械設備積算基準の改定について

1. 現場環境の改善費用の充実(1/4) (熱中症対策等)



- 従来、国土交通省直轄工事の積算では、ミストファン等の設備対応を共通仮設費（現場環境改善費）、経口保水液・空調服等の労務管理にかかる費用を現場管理費（真夏日の日数に応じて補正）にて計上。
- 工期設定では、猛暑日を考慮して設定。想定以上に猛暑日が確認された場合、適切に工期変更（延長）を行い、工期延長日数に応じて増加費用を計上。
- 令和7年度より、「現場環境改善費」（率計上）から避暑（熱中症対策）・避寒対策費を切り離し、熱中症対策・防寒対策にかかる費用を「現場環境改善費」（率計上）の50%を上限に、設計変更を実施。

<共通仮設費（現場環境改善費）>

現行

率計上費目	実施する内容（率計上分）
現場環境改善（仮設備関係）	1. 用水・動力等の供給設備 2. 緑化・花壇 他
現場環境改善（営繕関係）	1. 現場事務所の快適化 2. 労働宿舍の快適化 他
現場環境改善（安全関係）	1. 盗難防止対策 2. イメージアップ経費 3. 避暑（熱中症対策）・避寒対策
地域連携	1. 見学会の開催 2. デザイン工事看板 他

※計上費目4項目から5つ選択（1項目重複）

今後

率計上費目	実施する内容（率計上分）
現場環境改善（仮設備関係）	1. 用水・動力等の供給設備 2. 緑化・花壇 他
現場環境改善（営繕関係）	1. 現場事務所の快適化 2. 労働宿舍の快適化 他
現場環境改善（安全関係）	1. 盗難防止対策 2. イメージアップ経費
地域連携	1. 見学会の開催 2. デザイン工事看板 他

※計上費目4項目から5つ選択（1項目重複）

積み上げ計上費目（精算時の設計変更対象）

主に現場の施設や設備に対する熱中症対策・防寒対策に関する費用については、対策の妥当性を確認の上、設計変更。なお、積み上げ計上の場合は、現場管理費に計上される作業員個人の費用と重複がないことを確認し、率分で計上される現場環境改善費の50%を上限。

1

1. 現場環境の改善費用の充実(2/4) 共通仮設費



○工事積算における熱中症対策に関する対応には、**共通仮設費（現場環境改善費の避暑（熱中症予防））**と、熱中症対策に資する**現場管理費の補正**があるが、それぞれの内容について以下のとおり例示する。

共通仮設費（現場環境改善費の避暑（熱中症予防））

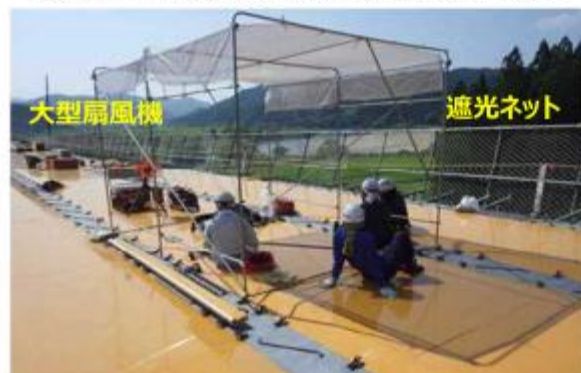
写真出典：「建設現場における熱中症対策事例集」
（平成29年3月国土交通省大臣官房技術調査課）

<H29年度より基準書に追記>

・現場環境の改善（安全関係）に要する費用として計上。**主に現場の施設や設備に対する熱中症対策費用**

例：遮光ネット、大型扇風機、送風機、製氷機、日除けテント、ミストファン、休息車の配置等

メッシュシートによる遮光設備と大型扇風機の設置



作業員休息所から離れている箇所に休息車を配置
（車内にクーラーや温冷庫を設置）



現場休憩所に日除けテント・ミストファン設置



給水器



製氷機



1. 現場環境の改善費用の充実(3/4) 現場管理費



現場管理費の補正(熱中症対策)

<H31年度より試行>

写真出典：「建設現場における熱中症対策事例集」
(平成29年3月国土交通省大臣官房技術調査課)

- ・工事現場の安全（熱中症）対策に要する費用として計上。**主に作業員個人に対する熱中症対策費用。**

例：塩飴、経口保水液等効果的な飲料水、空調服、熱中症対策キット等

塩飴等



経口保水液等効果的な飲料水を常備



熱中症対策キットの設置場所の明示



空調服



ヘルメット取付ソーラー充電式ファンとクーリングベルト



熱中症対策キット



1. 現場環境の改善費用の充実(4/4) 積算要領他



「現場環境改善費（熱中症対策・防寒対策）に係る積算要領」について

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kendozukuri/kensetsu/7304350/>

様式1

様式2

現場環境改善費（熱中症対策・防寒対策）計画書					
次の工事において、現場環境改善費（熱中症対策・防寒対策）について計画書を作成したので協議します。					
1 工事名					
2 受注者名					
3 現場代理人					
4 提出年月日					
対策内容	購入・リース	実施期間	実施日数	見積額等	備考
①給水器の設置	計画				
②日よけテントの設置	計画				
③ミストファンの設置	計画				
④製氷機の設置	計画				
合 計	計画				

※購入の場合で減価償却費の計算が必要な場合、必要に応じて計算書を添付してください。

現場環境改善費（熱中症対策・防寒対策）報告書					
次の工事において、現場環境改善費（熱中症対策・防寒対策）を実施したので報告します。					
1 工事名					
2 受注者名					
3 現場代理人					
4 提出年月日					
対策内容	購入・リース	実施期間	実施日数	見積額等	備考
①給水器の設置	計画				
	実績				
②日よけテントの設置	計画				
	実績				
③ミストファンの設置	計画				
	実績				
④製氷機の設置	計画				
	実績				
合 計	計画				
	実績				

※本様式の他、実施状況の写真、領収書等の写しを添付してください。
※購入の場合で減価償却費の計算が必要な場合、必要に応じて計算書を添付してください。
※協議時に見積書を提出している場合は、報告時の添付は省略してください。



令和7年7月1日以降に入札公告又は指名通知を行う工事から適用

●実施要領改定

●対象工事の拡大

現場閉所困難工事を除く全ての土木工事

「試行」から「原則」への移行

「週休2日確保工事」を「原則」適用

「担い手確保モデル工事」および「受注者希望型」の終了

対象期間とは

工事着手日から現場作業完了日までの期間

ただし、年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を中止している期間等を除く



現場閉所とは

巡回パトロールや保守点検等、現場安全管理上必要な作業、又はコンクリート養生やレイタンス除去等、品質管理上必要な作業を行う場合を除き、現場事務所での事務作業を含めて1日を通して現場や現場事務所が閉所された状態
なお、降雨、降雪等による予定外の現場閉所日についても、現場閉所日数に含めるものとする。

週休2日（4週8休）とは

現場閉所率が28.5%（8日／28日）の水準の状態

現場閉所率＝対象期間内の現場閉所日数÷対象期間内の日数×100%

月単位の週休2日は対象期間内の**全ての月毎の現場閉所率が28.5%水準**の状態をいう。ただし暦上の土曜日・日曜日の閉所では28.5%に満たない月は、その月の土曜日・日曜日の合計日数以上に閉所を行っている場合に、4週8休以上を達成しているものとみなす。

対象期間：週単位（完全週休2日）、月単位、通期



【週休2日確保工事】

当初設計

- ・発注者が、工事名に週休2日確保工事である旨を記載し、特記仕様書に明示します。
- ・当初設計金額は、「**月単位**」の補正係数を乗じて算出されます。

工事着手までに

- ・「**完全週休2日（土日）**」に取り組む場合は、第6条様式にて受注者から発注者へ通知
- ・受発注者で協議
- ・工事看板（標示板）に、「週休2日確保工事」等であることを記載

施工中

- ・適切な工程管理
- ・休日に作業を行うときは事前に休日・夜間作業届の提出
- ・現場閉所日の振替を行う場合は、振替日の協議

設計変更

- ・現場作業が完了した場合及び監督員から求めがあった場合、すみやかに週休2日の達成状況が確認できる書類を監督員に提出
- ・達成状況等に応じた補正係数で設計変更を行う

ご協力をお願いします

週休2日確保工事

〇〇〇〇〇〇〇を
なしています

令和〇年〇月〇日まで
時間帯〇:〇〇~〇:〇〇

発注者 徳島県〇〇総合県民局
県土整備部〇〇庁舎
電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

施工者 〇〇〇〇建設株式会社
電話 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

（例）月単位の場合

第6条様式提出無し→「**月単位**」の週休2日の達成状況を確認

第6条様式提出有り→「**月単位**」又は「**完全週休2日（土日）**」の達成状況を確認



経費の負担

■ 週休2日確保工事

補正項目	週休2日 月単位	完全週休2日 (土日)
労務費	1.02	1.02
共通仮設費率	1.01	1.02
現場管理費率	1.02	1.03

■ 週休2日交替制工事

補正項目	週休2日 月単位	完全週休2日
労務費	1.02	1.02
共通仮設費率	1.02	1.03

市場単価・標準単価については「週休2日確保工事等実施要領」参照

通期の週休2日は令和7年7月以降の発注分は補正対象外

完全週休2日（土日）

- 第6条様式で通知が有り、
全ての週で完全週休2日（土日）を
確認できる場合

月単位

- 全ての月で**4週8休以上の現場閉所が確認できた場合
- 第6条様式で通知が有り、
月単位の週休2日は達成しているが、
週毎では**完全週休2日を達成出来てない週が**
あった場合

月単位4週8休未満（補正なし）

- 月単位**の現場閉所率が28.5%に満たない場合
- 監督員が現場の閉所状況を確認できない場合

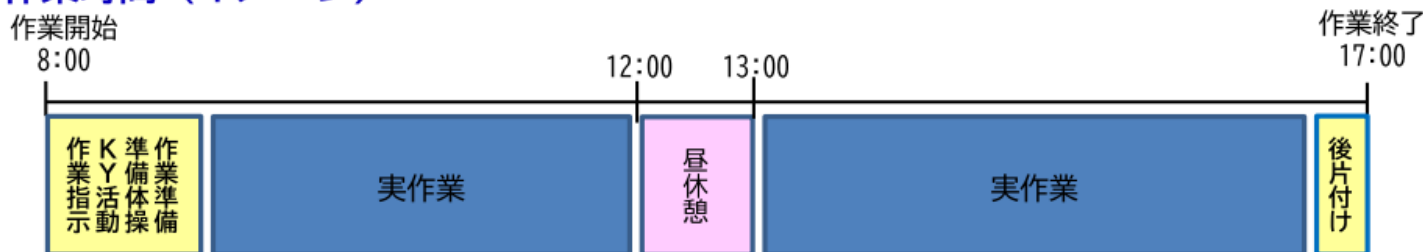
3. 移動時間等を踏まえた歩掛改定(1/2)



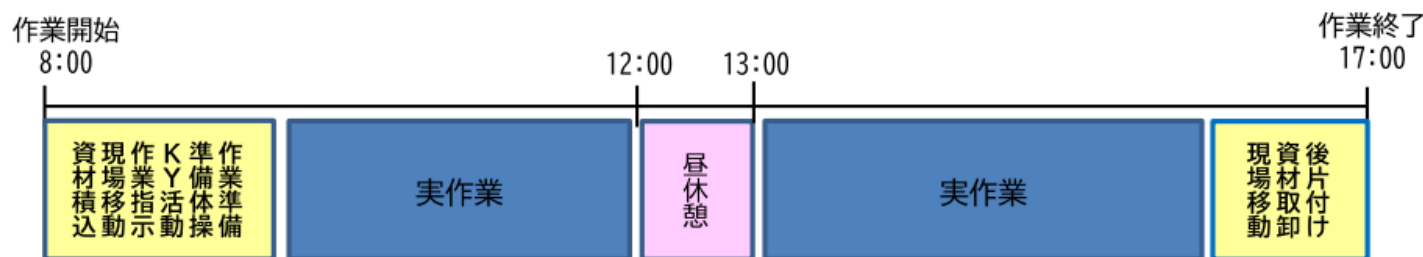
時間外労働の上限規制対応【移動時間を考慮した歩掛の改正】

- KY活動や準備体操、現場内の移動時間や後片付け等は一日の作業時間(就業時間)に含まれており、標準歩掛においても適切に反映されている。
- 路上工事など常設の作業帯が現場に設けられない工事において、別途設けられた資材基地から現場への移動時間を適切に反映できるよう、令和4年度に調査表の全面見直しを実施。
- 令和6年度は、路上工事だけでなく仮設工事においても同様の傾向が見られたことから、これを適切に反映。

■従前の作業時間（イメージ）



■移動時間を踏まえた作業時間（イメージ）



- 切削オーバーレイ工など**10工種**で、現場移動等により実作業時間が短くなり、日当たり施工量が減少している傾向が見られた。⇒ R7年度歩掛改正に反映

切削オーバーレイ工、構造物補修工(断面修復工)、油圧圧入引抜工、床版補強工、塵芥処理工、排水構造物工(暗渠排水管)、路盤工、路盤工(ICT)、透水性アスファルト舗装工、沓座拡張工

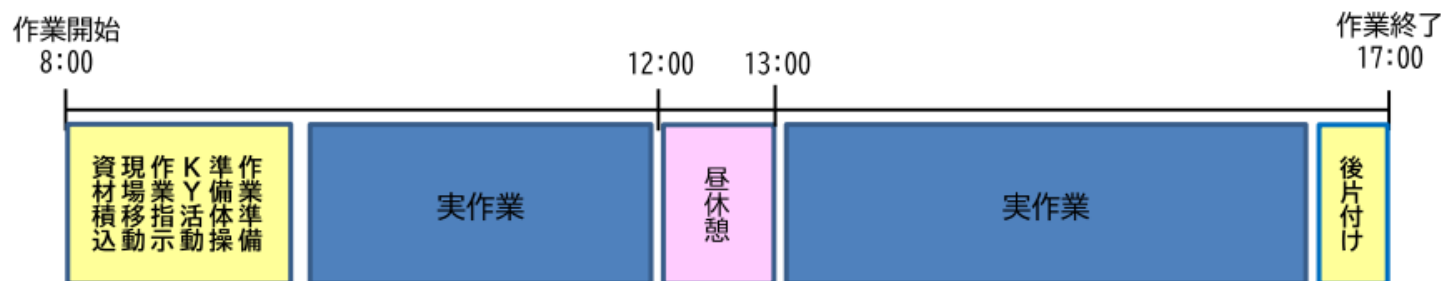
3. 移動時間等を踏まえた歩掛改定(2/2)



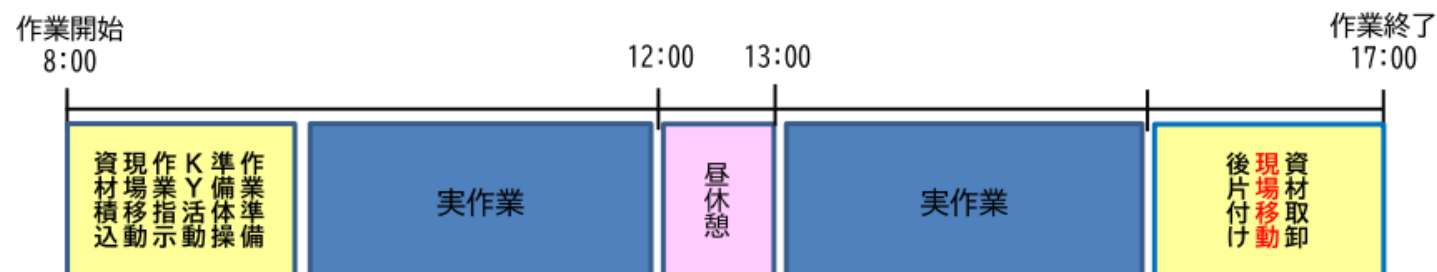
時間外労働の上限規制対応【建設機械の回送時間を考慮した歩掛の改正】

○ 令和6年度は、建設機械を日々回送して使用する工種において、日当たり施工量に変動が見られたことから、これを適切に反映。

■従前の作業時間（イメージ）



■移動時間の増加により変化した作業時間（イメージ） ※日々回送する移動式クレーン



○ 鋼橋架設のバント設備にかかる工種において、移動式クレーンが日々回送することで実作業時間が短くなり、日当たり施工量が減少している傾向が見られた。 ⇒ 令和7年度歩掛改正に反映

鋼橋架設工(バント設備設置・撤去、バント基礎設置・撤去)

4. 土木工事標準歩掛の改定



1. 土木工事標準歩掛 【14工種】

土木工事標準歩掛は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における単位施工量当たり、若しくは日当たりの労務、材料、機械等の規格や所要量について工種ごとにとりまとめたもので、「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、新規工種の制定及び既存制定工種を改定

(1) 新規制定【3工種】

- ①排水材設置工（水平排水層）、②中層混合処理工（ICT）、③切削オーバーレイ工（ICT）



排水材設置工（水平排水層）



中層混合処理工（ICT）



切削オーバーレイ工（ICT）

(2) 使用機械、労務等の変動による改定【6工種】

- ①スラリー攪拌工、②全回転オールケーシング工、③残存型砕工、④締切排水工、⑤雪寒仮囲い工、⑥大型土のう工



大型土のう工



雪寒仮囲い工

(3) 移動時間を考慮した改定【4工種】

- ①構造物補修工（断面修復工）、②切削オーバーレイ工、③油圧圧入引抜工、④床版補強工



鋼橋架設工



油圧圧入引抜工

(4) 建設機械の回送時間を考慮した改定【1工種】

- ①鋼橋架設工



2. 施工パッケージ関係歩掛 【10工種】

施工パッケージ型積算基準は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における機械経費、労務費、材料費を含む単位施工量当り「単価」を工種区分毎に設定したもので、「施工合理化調査等の実態調査」の結果を踏まえ、施工パッケージ型積算基準及び標準単価表を改定

(1) 使用機械、労務等の変動により改定を行う工種 【4工種】

- ①発泡スチロールを用いた超軽量盛土工、
- ②護岸基礎ブロック据付工、③舗装版クラック補修工、
- ④消波根固めブロック工



発泡スチロールを用いた超軽量盛土工



護岸基礎ブロック据付工

(2) 移動時間を考慮した工種 【6工種】

- ①排水構造物工（暗渠排水管）、 ②塵芥処理工、
- ③路盤工、④路盤工（ICT）、⑤透水性アスファルト舗装工、
- ⑥沓座拡幅工



路盤工（ICT）



排水構造物工（暗渠排水管）

「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」の公表

施工パッケージ型積算方式の理解向上に資するため、施工パッケージ標準単価の代表機材規格のうち、**代表機械規格及び代表労務規格の参考数量（積算単位当りの労務の人工数や機械の運転日数等）**を「施工パッケージ型積算方式標準単価表（参考資料）」として、国土技術政策総合研究所HPに掲載（令和7年3月末公表）。

(https://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm)



○ 鋼橋製作工の歩掛について、製作現場の実態を踏まえ改定

● 製作費

鋼橋製作費 本体製作工 加工組立工数(標準工数(人／個))

種 別		現行	改定
丸型鋼橋脚	a1 大型	6. 3 9	6. 7 6
	a2 小型	0. 5 4	0. 5 7

鋼橋製作費 本体製作工 仮組立て工数(標準工数(人／個))

種 別		現行	改定
鋼床版鈑桁	c	3. 6 1	4. 1 7
アーチ	c	2. 5 5	2. 7 0

鋼橋製作費 付属物製作工数 伸縮継手(標準工数(人／t))

形 式		現行	改定
フィンガー形式 (J-1)	d	1 1. 2	1 5. 3
車道部はフィンガー形式 歩道部重ね合わせ(踏板)形式 (J-2)	d	1 2. 2	1 4. 9



「ICT建設機械による施工」の積算における「保守点検」の廃止

○作業前後において、ICT建設機械は通常建設機械とは異なり、通信機器や表示モニター等の点検や確認に要する作業が別途必要となることから、保守点検費用としてが以下の算定式に費用を計上。

【保守点検】

$$\text{保守点検} = \text{土木一般世話役（円）} \times 0.05 \text{（人/日）} \times \frac{\text{施工数量（m}^3\text{）}}{\text{作業日当り標準作業量（m}^3\text{/日）}}$$

○実態調査の結果、点検・確認作業にかかる時間に差異が見られなかったことから、保守点検費用の別途計上を廃止。

＜通常建設機械の点検作業＞

作動油チェック、残燃料確認、油漏れ・水漏れ目視点検、履帯緩み確認、グリス給脂、バックカメラ点検などを実施

（参考例）ICT活用工事積算項目

令和6年度積算基準

直接工事費

1) ICT施工パッケージ、標準歩掛

共通仮設費（技術管理費）

1) 保守点検

2) システム初期費

3) 3次元起工測量・設計データ作成費用

4) 3次元出来形管理・データ納品・外注経費等の費用

令和7年度積算基準

直接工事費

1) ICT施工パッケージ、標準歩掛

共通仮設費（技術管理費）

1) システム初期費

2) 3次元起工測量・設計データ作成費用

3) 3次元出来形管理・データ納品・外注経費等の費用



改定のポイント

- 機械設備積算基準は、土木機械設備請負工事費等の積算に用いる標準的な施工条件における労務工数、材料数量、直接経費等の所要量についてとりまとめたもの。
- 実態の結果を踏まえ、既存制定工種の歩掛及び諸経費を改定。
- 技術基準類の改定に伴い、既存制定工種歩掛の作業範囲を改定。

(1) 機械設備工事積算基準の改定

実態調査の結果、現行の積算基準との乖離が見られたため改定

- ①河川用水門設備における二次コンクリート及び型枠費
- ②揚排水ポンプ設備における低圧受電の場合の受電設備据付材料費
- ③工場及び現場塗装におけるプライマー処理並びにエアレススプレー塗りの歩掛

(2) 機械設備点検・整備積算基準の改定

実態調査の結果、現行の積算基準との乖離が見られたため改定

- ①ダム用水門設備の共通仮設費率 → ※令和7年5月に改定済み

技術基準類の改定に伴う作業範囲の改定

- ①トンネル換気設備の標準点検工数（月点検・年点検）